

令和5年度 磐田市立竜洋中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	R5 到達	自己 評価	考察	学校関係者評価委員から
安心安全な学校	生徒一人ひとりにとって安心して学ぶことができる人的、物的環境を整える。	「学校生活を楽しんでいる」と答える生徒95%以上	93%	B	<p>目標としていた到達度の95%には届かなかったものの、ここ数年の中では一番高い数値であった。コロナに関する制限がとれ、ほぼ正常に近い形での学校生活が可能となり、行事を始めとする日常生活を多くの生徒たちがよい表情で送っていたように思う。</p> <p>しかし、その一方で人間関係の形成や家庭に不安材料を抱えている生徒も多く、精神的に不安定になっている様子も見受けられる。個々の生徒の心に寄り添う指導を今後も継続して行き、すべての生徒にとって学校に居場所がある、安心・安全な学校体制づくりに努めていく。</p>	<p>・ほぼ目標に到達度が達したことは評価できると思います。感染症が収束に向かい、生徒の心も少しずつ充実したことが、「学校生活を楽しんでいる」という回答につながっているのではないかと思います。明るい笑顔を目にする機会が多く、大変よい傾向だと感じています。</p> <p>・私が気にかけていることはよい評価ではなく、マイナスの評価です。今年度は先生方の説明の中で、マイナス評価の子たちの存在を気かけ、フォローしていくお話をいただいたので、対応の速さに関心します。相談できるWeb窓口の設置はとて素晴らしいと思います。言葉にして人に伝える事で気持ち楽になると思いますので、とてもよい取組だと思えます。</p> <p>・授業参観等を通して、全職員がいろいろな場面で、生徒・保護者の気持ちに寄り添い、取り組んでいる様子がわかりました。</p> <p>・全体的に高い到達度なので、環境がよいのではないのでしょうか。来年度も生徒の環境がよくなるように頑張っていたきたいと思います。</p>
		「先生は、あなたのことを理解してくれていますか」と答える生徒90%以上	90%	A	<p>令和3年度以降、90%台の高い数値で安定している。ステージ性を導入して以降、各ステージの終わりに実施している振り返りアンケートの中でも生徒の悩みを早期にキャッチし、初期対応にあたることができている成果であると捉えられる。生徒指導主事を中心に養護教諭やSC・SSWなどの専門スタッフも含めたチームでの指導体制がうまく機能し始めていることも理由の一つだと考えられる。</p>	
		「悩み事を相談できる先生や友達がいいますか」と答える生徒95%以上	88%	B	<p>目標としていた95%という到達度まではいかなかったが、昨年度と同等の比較的高い到達度であった。しかし、悩みを打ち明けることができない生徒が、少しでも支援要請をしやすいような環境作りに引き続き努めていきたい。</p> <p>今年度から担任に言えないことも相談できるWeb相談窓口を設置した。生徒指導主事に直結するこのシステム等も引き続き活用しチーム体制で生徒の支援にあたっていく。そして、生徒同士の豊かな人間関係づくりや教師との信頼関係の構築がより図れるよう、努めていきたい。</p>	
確かな学力の育成	授業改善を常に意識し、生徒が活動しやすい授業構想を練り、生徒にとって「わかる授業」を実践する。	「授業がわかる」と答える生徒90%以上	93%	A	<p>昨年度の88%という到達度よりも5%の伸びが見られた。授業におけるICTを活用についても有効性を追求した活用の幅は年々広がりを見せ、個別最適な学びや協働的な学びの推進に役立っている。しかし、個々の基礎学力の定着という点については、まだまだ課題に感じることが多くあるため、引き続き、授業改善に取り組んでいきたい。</p>	<p>・まず到達度が大幅に上昇したことを評価します。学校におけるICT導入の有効性は効率的かつ公平な学習機会の提供にあります。また、学習レベルの個別的な対応が可能なことも利点です。しかし、手軽な端末利用は「やった気になる」、つまり「流されやすい」学習環境に置かれることであり、探究心をどう育てていくかが重要な課題です。学校には動機付けの適正なアプローチを期待します。</p> <p>・生徒の力を引き出し、伸ばしていこうという姿勢が素晴らしいと思います。</p> <p>・授業を理解して、試験にも反映されていくとよいと思います。</p>
	授業の方法を改善し、自分で調べたり、仲間とともに考えたりするなどの活動を取り入れる。	「進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している」と答える生徒80%以上	90%	A	<p>昨年度の到達度よりも大幅な数値の上昇が見られた。一人一台端末の活用が生徒にとっても常となり、探究学習や表現活動など、生徒個々に応じた活用ができるようになった。今後もさらに研修を進めていくことで、「主体的で対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に努めていく。</p>	

令和5年度 磐田市立竜洋中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	R5 到達	自己 評価	考察	学校関係者評価委員から
主体的 に考え、 ともに学 び、実行 する生 徒の育 成	学校行事や委員会活動、部活動など、生徒が主体的に取り組むと共に、個を育て一人一人の向上につなげる。	「生徒会や学級の係活動・部活動に積極的に取り組んでいますか」と答える生徒 90%以上	93%	A	今年度は昨年度よりもさらに3%数値が上昇し、93%という結果であった。今年度はコロナによる制限がとれ、学校生活もコロナ前の通常の形に戻ったため、生徒会活動も部活動も、思い思いに全力で取り組める環境が整った1年だった。竜洋海洋フェスタなど、校外での活躍の場ももて、全体的には生き生きとした表情で諸活動に取り組む様子が見られた。今後も生徒の活躍の場を校外へ広げていくように支援していきたい。	・子どもたちの時間は大人の時間と違って一年一年がとても大切な時期なので、コロナの制限がなくなり、たくさん活動ができるようになったことはとてもよかったと思います。たくさんの人とのつながりを大切にしてほしいと思います。 ・生徒一人一人が前向きに取り組んでいる姿が浮かんできます。 ・生徒の積極的な姿勢がうかがえて、うれしく思います。
		「互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」と答える生徒95%以上	92%	B	昨年度に引き続き高い数値で安定している。すべての学校行事をコロナ前とほぼ同様の形で実施ができ、いずれも生徒たちの満足度も高いものとなった。日頃の学校生活からどの学級も諸活動に積極的に取り組む姿が見られ、行事も含め各学級での1年間の足跡のなかで、学級愛や学級自治力を高めている様子が見受けられた。	・学校行事等をたまに見学させてもらっていますが、一生懸命あるいは積極的に取り組む様子が見られてよいと思います。 ・生徒数の減少、教員の負担軽減などの理由により、今後学校単位での部活動や行事等の枠組みは解消されていくものと考えます。竜洋中は比較的独立した地理にあり、すぐにそうはならないと思いますが、授業以外でどう生徒と結びつきを保持していくか、検討を進める時期がきているような気がします。
小中一貫教育の推進	地球の様々な課題を自分ごととしてとらえ、足下から行動するとともに、周りの人々とのプラスの関わり合いを持つことで、自己存在感、自己有用感を高める。	「大交流を通して、学府の小学生と関わることのよさを感じることができた」と答える生徒80% ↓ 交流会未実施のため質問項目変更 *「大交流会はできなかったが、大交流会などを通して、学府の園児・小学生とかかわることのよさや必要性を感じている。」	89%	B	昨年度は3年ぶりに実施できた大交流会であったが、今年度は残念ながら感染症の流行により、中止となってしまった。しかし、計画段階より、職員・児童生徒ともに、交流相手を意識しながら、綿密な計画を練り準備を進めることができた。交流会自体は実施できなかったものの、交流活動への意欲や残念な思いを、動画メッセージや掲示物で自主的にまとめて送り合うなど心の交流を交わす様子も多く見られた。 アンケートは交流会が実施できなかったため文言を換えて行ったところ、89%の児童生徒から、交流することのよさや必要性、楽しさ等を感じているとの回答を得た。人との関わりに意義を見出している竜洋学府の子どもたちが育っていることを実感できたデータであった。来年度は実施したい。	・大交流会は「竜洋は一つ」という思いを高める大変よい機会であり、保護者もとても楽しみにしていました。今年度は感染症予防のために中止となってしまったことは誠に残念でした。運営の大変さは承知していますが、できれば延期してでも実施できる体制を整えていただければありがたいと思います。 ・大交流会の中止は残念でした。来年度の大交流会を楽しみにしています。 ・中学生が小学校に向向いて挨拶運動に参加してくれるのもいいと思います。何はともあれ、来年度の大交流会を楽しみにしています。

学校関係者評価を受けてのまとめ

・今年度も全体的に数値は上昇傾向にあり、高い到達度で安定していた。今年度は、コロナに関する制限がなくなり、ほぼ通常の形での学校生活ができるようになったことで、学習面だけでなく、特に行事を中心とした特別活動面においても笑顔で生き生きと活動する生徒の姿が多く見られるようになった1年だった。その分学校生活で充実感を感じられる機会も増え、さらに組織全体をあげての教育支援体制が年々整いつつあることが、数値の上昇につながっていると考えられる。しかし、コロナ禍を経て、人間関係づくりに不安を感じている生徒も少なからずいる。悩みや心の内を他人に開示することが苦手な生徒もいるため、Web相談等のシステムも有効に活用しながら、来年度も「安心・安全な学校づくり」を目指して、一人も取り残さない、よりきめ細かな支援にあたっていきたい。

・一人一台端末の授業での使用が生徒にとっても教師にとっても常となり、より学習効果が高まってきている。「確かな学力の育成」に関する項目において、例年にないほどに数値の伸びが見られるのは、生徒の端末操作力が向上し活用の幅を自主的に広げられるようになったことだけでなく、ICTを効果的に活用した授業を展開できるようになった教師の授業力の向上による効果も大きい。学校運営協議会委員の方々からいただいた御意見にもあるように、適切な端末の活用と、探究心を育てる効果的な活用についても意識しながら、校内研修等で今後も研鑽を積んでいきたい。

・昨年度と比較すると数値が減少している項目が3項目あったが、最も減少の度合いが大きかった項目は大交流会に関する項目であった。今年度は感染症の流行により実施できなかったことが減少の大きな理由であるが、それでも実施できなかった中で89%という高い数値であった裏には、生徒たちの校種を超えて交流を望む思いがある。また、学校運営協議会委員の方々からも、大交流会の取組は高く評価をしていただいた。また、今年度は学府で初めてのバザー「みんなでマルシェ」を実施した。多くの地域の方々に参画していただき、大盛況で終わったことも大きな成果であった。今後もさまざまな取組を通じて、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの推進を進めていきたい。